



＊第39回＊

児玉 裕子

富士フィルム

デジタルカメラ とともに歩んだ 私の社会人生活史

まえがき

これから理系技術者をを目指す方へ、私が理系に進み、今に至る経緯を紹介し、現在の仕事や子育てについて簡単に触れたいと思います。執筆にあたり、過去の記事を読みましたが、いろいろな経歴の方がいるんだなあと参考になりました。私の記事もその中の一人として皆様の参考になれば幸いです。

学生時代

中学生の頃は、バレーボール部に所属していました。将来なりたい職業は？など全然考えることなく、目のテストをこなし、部活動の試合に臨む。そんな毎日でした。ただ、当時は国語や英語が得意だったし、好きだったので、漠然と普通の高校に進もうと思っていました。3年生になった頃でしょうか。進路を決めなければならない時期になりました。漠然と普通の高校と思っていたところに、突然、両親に理系の学校へ進学するよう説得され、一度は嫌だと訴えたものの、説き伏せられてしまい、理系の学校に行くことになってしまいました。

いざ理系の学校に入学してみると、やはり好きで入ってきている人が多く、その当時とても高価だったパソコンをすでに持っていて、家でいじくり

まわしているような猛者（もさ）が沢山いました。授業も数学、化学に始まり、電子回路、物理、プログラミング、実験など専門教科ばかりで国語、英語はおまけ程度でした。ほれみろ、父、母！私なんぞの来るところではなかったでしょう？と一気に成績を落とせば良かったのですが、負けず嫌いで数学や理科も特に嫌いではなかったことから、猛者に喰らいついてしまい、ついには国語や英語が好きだった私は淘汰され、すっかり理系女子として生まれ変わってしまいました。

就 職

私の地元は北海道ですが、世の中を知るためには、一度は都会に出なければと思っていたので関東の企業にターゲットを絞り、情報収集しました。

その中で、富士フィルムは実家が自営業をしていた時にフィルムや写ルンですを販売していたこと、現在では少なくなりましたがフィルム現像の拠点としてお客様からフィルムを預かり、写真にしてお渡しする街の現像屋さんをやっていたこと、父や祖父がカメラ好きで家のアルバム写真をよく見ており、自分も写真が好きだったこと、デジタルカメラや内視鏡、X線画像診断装置など電気・電子系の製品を開発していたことから興味を持ち、さらに説明会での人事の方の説明内容や話し方から、企業風土が自分に合っていると感じ、就職を決めました。

入社後の仕事と移転

入社から現在に至るまで、デジタルカメラ用のLSIの設計・開発を行ってきました。私の担当業務としては、表示に関する部分で、液晶画面やテレビに撮影画像やメニュー画面を表示するためのデジタル回路設計を行ってきました。ただし、入社当初のテレビはアナログテレビでしたので、デジタル回路とアナログ回路の両方を設計していたこともあります。デジタルとアナログの両方を設計するためには、覚えることが2倍となりますし、設計の性質が異なるので、どちらも中途半端に感じ、とても苦労した思い出があります。

その後、事業部の方針で二度の職場移転を経験しました。中でも一度目の移転は関東から東北への移転で、家庭の事情などで退社される方もおられ、そのメンバをいかに補い、業務を遂行するかが問われる非常に厳しい局面でした。この頃、入社して初めてLSI全体の開発を推進するリーダー業務を担当することになり、一気に幅広い知識が要求され、さらには他のグループとのコミュニケーション、関連メーカーとの綿密な打ち合わせ等を経験し、知識と経験、人脈も広がった時期となりました。自身を成長させるとても貴重な機会だったのですが、このとき同時に推進しようとしていた他のプロジェクトがうまく軌道に乗らなかったこと、LSI開発の責任という重圧、環境の変化等々で、少し疲れてしまった時期で

↑富士フィルム株式会社

"The History of My Working Life with Digital Camera" by Yuko Kodama (Optical Device & Electronic Imaging Products Development Center, R&D Management Headquarters, FUJIFILM Corporation, Saitama)



頼もしい職場の同僚

もありました。そんな折に、二度目の移転があり、私としては環境が一新されることによって、また1からコツコツとやればいかな、と思えるようになり、ちょうどいい気分転換となりました。こうして、しばらく仕事も気持ちも落ち着いてきた頃に、ちょうど一人目の子供を授かることになりました。

仕事と家庭の両立

現在2歳と6歳の2児の母として日々、仕事と家庭の両立を目指して奮闘しています。どちらの場合も育児休業をしっかりとって復職したのですが、復職したてはやはり軽い浦島太郎状態になり、いろいろ思い出しながら、聞きながらの設計となりました。特に1度目の復職時には、設計ツールが変更になっており、新しく覚える必要もありました。そんな私でしたが、メンバの皆さんは、2回とも温かく送り出し、迎えて下さり、私が抜けていた期間は、その分もサポートしてくれていたのだと思うと、感謝の気持ちでいっぱいです。そんな気持ちのせいか、復職してからは、以前より、メンバや仕事、環境に対し感謝するようになり、より会社を好きになったように思います。また、2度目の復職時は、希望していた復職時期より半年ほど前倒しで復職しました。当時、家庭の事情で復職時期を遅めに設定していたのですが、予定より早く復職できる体制が整ったことと、会社側の設計業務の過度期が

ちょうど重なり、もし戻れたら早めに復職できないかと相談されました。これも何かの縁だと思い、少しでも恩返しができるという思いで早めの復職を決断したことを覚えています。

私の家庭では夫の両親も、私の両親も、どちらも遠くに住んでいるため普段の生活で頼ることはできません。加えて、夫の通勤に時間がかかるため家を出るのが早く、帰りも遅いため、子供が朝起きてから夜寝るまで、子供の世話はほぼ一人で行わなければなりません。ご飯を食べさせ、着替えさせ、自転車の前と後ろに二人を乗せて、保育園に連れていき、出社。業務が終わると保育園へ直行し、帰宅、夕食を作り、食べさせ、お風呂に一緒に入り、この間に洗濯物を回し、お風呂からあがったら洗濯物を取り込み、干し、食器類を片付けて寝かしつける。そのまま自分も寝てしまうこともあれば、一念発起し、明日の登園準備や夕食の後片付け、洗濯物をたたんで収納をするなどの雑用をこなすことも。時に洗濯物を干し忘れたり、夕食の後片付けが終わっていない状態で寝てしまうこともあります。そんな時は夫が帰宅後に片づけてくれたりします。夫は帰宅後のサポートだけではなく、朝も、子供らの持っていく水筒とコップの準備、ゴミ出しを必ずやってくれ、さらに土日には夕食を作ってくれることも多く、とても助かります。共働きで特に両親のサポートを期待できない場合

は、夫のサポートがとても重要になってきます。というわけで、平日に自分の時間はほぼないです。こんな話を聞くと、自分にはできそうもないと思いますよね。でも、大丈夫です。私もそう思っていたうちの一人でしたが、なんとなんていいますし、周りの話を聞くと、大変なのは子供が小さいうちだけで大きくなるとどんどん手が離れて逆に寂しくなるくらい、だそうです。その言葉を信じて、「今だけ今だけ」と念じて日々を過ごしています。

また、私の業務は年に何度か山がありますが、幸い山の時期がおおむね予測できますので、保育園の延長や土曜保育、自治体が運営しているファミリーサポート（通称：ファミサポ）をフル活用して対応しています。会社として、子供が小さい間は残業や休日出勤などの所定外労働免除を申請することも制度的に可能ですが、自分のできる範囲でやってみようという自分の意思で取組んでいます。やはり、穴を空けてチームワークや計画を乱したくないですし、自分が休んでいた間の恩返しができるかな？という気持ちで取組んでいます。ですが、時々自分でも気付かないうちにやりすぎてしまい、山が過ぎ去ったあとに放心状態に陥ることもあるので、なるべくそうならないように、最近では自分の限界を意識しながら業務に取組むように気をつけるようにしています。

そのほか、子育てをする上でいろいろな体制を整えることはとても重要になってきます。さきほど軽く触れたファミサポですが、簡単に説明すると自分の住んでいる家の近所の有志の方が、子育ての手助けをしてくれるもの（有料）で、自治体を通して、近所の方を紹介して頂き、こんなときにこんなことをお願いしたいのですが…という相談をし、双方の合意を元に契約を交わすもので、初めはなんだか敷居が高いように感じ、面倒そうだし、知らない人に子供を預けるなんて不安だし…、と会員登録をしたものの、しばらく利用を躊躇していた時期がありました。しかし、職場復帰を控え、当時の延長保育の利用時間が1時間と短い保育園

だったこともあり、不安だなんだと言っていられないよね、ということになり思い切って利用してみることにしました。結果、大正解で、今では子供もとてもなついていますし、特に業務が山の時には毎週のように利用させて頂いています。また、いざという時に近くに頼れる人がいる。という安心感はとても大きいものです。このような大きなサポートから、例えば、食洗機や電動自転車のような家電製品、ネットで宅配注文できるスーパーのようなもので、とにかくできる範囲であらゆる手をつくして、安心材料を整えておくことはとても重要ではないかと思います。それから、最近よく思うのは、料理のレパートリーを多くしておくことも大事ななと思います。私は本を見て本の通りに料理をするマニュアル人間だったのですが、それでは、家にあるもので何か作れるかということ、なかなか難しいです。ネットで、材料検索をしてレシピが簡単に見つかりますが、子供がおいしく食べられる料理かどうかという、なかなか難しいものがあります。二人目の子供ができて、だいぶ子供が喜んで食べてくれる料理がわかるようになり、レパートリーが増えましたが、今思うと、一人目の子供の時は、作ったものや買ってきたものを食べてくれないと、なんで食べないんだ！と怒ったりして、正直可哀そうだったなあと反省しています。ごめんねえ。

制度の有効活用

会社の制度に在宅勤務という制度があり、現在週に一度のペースで自宅で仕事をしています。これは妊娠期にも活用していました。在宅勤務のメリットは、通勤時間を短縮できることと、昼休み時間を有効活用できることです。昼休み時間に近所のスーパーに行き食材を買い足したり、銀行や郵便局、役所に行き用を済ませることができ、ちょっとした用事でわざわざ休暇を取得しなくても良くなることです。また、家で一人で仕事をするわけですから、集中して仕事ができるというメリットもあります。当初、コミュ

ニケーション不足になるのではと懸念していましたが、メールも携帯電話も、チャットもありますし、コミュニケーションが必要な過渡期等では在宅勤務を取得せず、出社するなど運用を工夫することで、いまのところさほどデメリットを感じたことはありません。時々、話し相手がなくて寂しいなと感じることはありますが、そんな時は、職場のメンバにチャットやメールでちょっかいをかけてやりとりすることで解消しています。

そのほかに活用した制度としては、1日の所定労働時間を1日最大2時間まで短縮できる「短時間勤務」や、付与された有給休暇を半日単位で取得することができる「半日休暇」、同様に1時間単位で取得することができる「時間単位有給」があります。このような制度のおかげで、平日の保育園行事の参加や、子供の急な発熱などによる呼び出し等に柔軟に対応し、フレキシブルに働くことができていますように思います。

女性の活躍が世間で取り沙汰されるようになり、ここ数年で会社の制度もどんどん変化しつつあります。これからの社会で仕事と家庭の両立をするうえで、このような会社の制度をしっかり把握し、柔軟に使いこなすことも必要なスキルになってくるのではないかと思います。

ロールモデル

配属当初、女性技術者は先輩に1名、同期に1名おりました。おそらく全体の1～2%程度だったと思います。それからしばらくはその状態が続いていたのですが、一度目の移転で、散り散りになり、移転先で新しく4名の女性技術者が加わるも、二度目の移転後、また散り散りになり、思えば、デジタルカメラをずっとやり続けている女性技術者というのは私だけという状態です。ですので、ロールモデルはなく、しいて言えば、男性技術者を見て、想像するしかありません。が、当時、育児休業を取っている男性はおりませんでしたし、今現在、在宅勤務をしている方も見かけませんので、あまり参考にならないのが正直なところで



宝物

す。思い悩んだ時に相談できる相手がいれば、心強いのですが、いないものはいないので、諦めました。せめて後輩が入ってきてくれた時には、自分が相談できる相手になれたらいいなあと思います。

宝 物

最近大きくなった上の子が、私の仕事に興味を持ち始めました。ちょうどそのころ、会社見学をする機会があったのですが、見学後、覚えてたのつたない平仮名で「ままのしごとすごい!」、「ままだいすき」とやたら手紙をくれることがありました。正直、どのへんがすごいと思ったのか、わかりませんし、なんとなくお祭りのような見学会だったので、楽しい雰囲気が嬉しかっただけかもしれませんが、真意はわからないのですが、その手紙を見ると、「仕事、がんばってきてよかったな」と素直に思え、とても励みになり私の宝物となっています。

むすび

入社当初はとっても忙しく、しばらくその状態が続き、その後子育て期に入り、別の意味で忙しくなり、あまりゆとりのない社会人生活を過ごしてきたのかなあというのが実感ですが、今年の4月から上の子が小学校に通うようになり、これから少しずつ自分の時間を持てるようになってくるのかなと期待しています。これからは、少しでも自分のことにも目を向け、楽しみを加えつつ、一步、一步、着実に前進していきたいと思います。

最後までお付き合いくださり、ありがとうございました。

(2018年1月30日受付)